

議事録

1. 件名：「令和元年度核燃料輸送容器のスラップダウン落下試験に係る影響評価手法の精緻化」に係る打合せ
2. 日時： 令和元年 12 月 6 日(金) 13:30～15:45
3. 場所： 原子力規制庁 16 階 会議室
4. 出席者： 原子力規制庁
長官官房技術基盤グループ 地震・津波研究部門
大橋首席技術研究調査官、日比野統括技術研究調査官、石田技術計画専門職、北村主任技術研究調査官、永井技術研究調査官、吉村技術参与、澁谷技術参与

三菱重工業株式会社
パワードメイン 原子力事業部 機器設計部 主任 他 2 名
5. 要旨：
長官官房技術基盤グループ 地震・津波研究部門では、核燃料輸送容器のスラップダウン落下試験に対する構造健全性評価手法の適用性を確認するため、核燃料輸送容器のスラップダウン落下試験に係る安全研究を、平成 29 年度から令和 2 年度にかけて計画し、実施している。当部門では、本安全研究の一環として、三菱重工業株式会社と請負契約を締結し、「令和元年度核燃料輸送容器のスラップダウン落下試験に係る影響評価手法の精緻化」事業を実施している。
当事業に係る第三回打合せを実施した。内容は下記のとおり。
 - ①下部衝撃緩衝体の圧縮試験供試体について、承認図を確認した。また、試験治具等について組立図を確認し、今後承認手続に移ることとした。
 - ②核燃料輸送容器の落下加速度算定条件及び結果について確認した。
 - ③核燃料輸送容器の静解析における荷重の入力範囲について、従来の方法と試験結果を反映した場合の差異を検討し、決定することとした。
 - ④木材の材料試験条件について議論した。供試体の変位計測方法を確認し、供試体形状を踏まえ、一部については非接触方式の変位計を用いて計測することとした。
 - ⑤木材の圧縮試験方法について議論した。荷重制御型の試験装置により載荷する

こととし、一部の圧潰応力が大きくなる試験のみ変位制御型の試験装置を使用することとした。また、試験後の断面観察手法の確認のため、既往の供試体の一部を切り出し、断面観察が可能か確認することとした。

⑥今後の供試体製作、試験工程について確認した。

6. その他

特になし